

		農産	15	稲	雑草防除
新技術・情報名	北部九州における早期水稲田での雑草の発生活消長と除草剤の効果的使用法			分類	①

1. 成果の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

北部九州ではここ数年水稲の早期栽培が増加しているが、ここでは早期水稲作付数年目の圃場における主要雑草の発生活消長を明らかにするとともに、除草剤の効果的使用法を確立した。

(1) 主要雑草の発生活消長

早期水稲での雑草の発生始期は、代かき後8～18日頃であり、普通期水稲に比べ全般的に遅い。また、年次や草種により大幅な変動がみられる。草種別にみると、イヌホタルイは比較的早く、ついでノビエで、代かき後8～10日頃である。一方、アゼナ等の一年生広葉雑草は遅く、代かき後18日頃である。発生盛期や終期も遅く、発生期間は長い(図1)。

また、雑草の出芽後の出葉展開速度は普通期に比べ遅く、その遅れの程度は草種間に差がみられ、イヌホタルイはコナギより小さい(図2)。

(2) 除草剤の効果的使用法

早期栽培での一発処理除草剤の処理時期は、雑草が発生してくる直前(移植後12日頃)の散布が効率的である。なお、年次により雑草発生始期は異なるので、その年の気象条件(特に気温)や雑草の発生状況を考慮して散布時期を決定する。

2) 技術・情報の適用効果

早期水稲での雑草防除効果が向上する。

3) 適用範囲

早期水稲栽培全般。特に、除草剤の持続効果が短い砂壤土水田や遅発生雑草が多く、除草効果が不十分な地域。

4) 成果の利活用・普及指導上の留意点

除草剤の種類により登録上の散布時期は異なるので、散布適期幅の広いものを使用し、登録の範囲以上に遅くしない。

2. 具体的データ

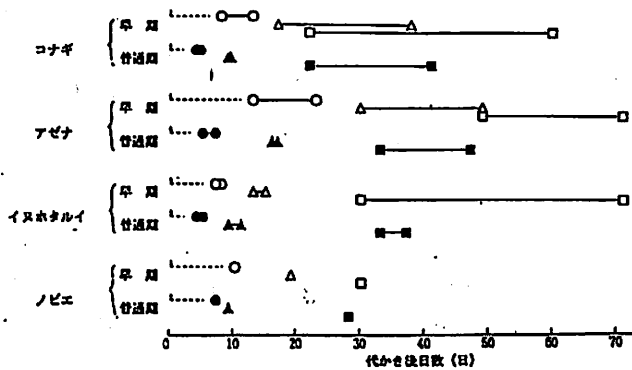


図1 雑草発消長の年次変動幅(元~3年) [砂壤土]

- 注① ○, ●: 始期, △, ▲: 盛期, □, ■: 終期
 ② 白ぬき...早期栽培, 黒ぬり...普通期栽培
 ③ ノビエはH3年のみ

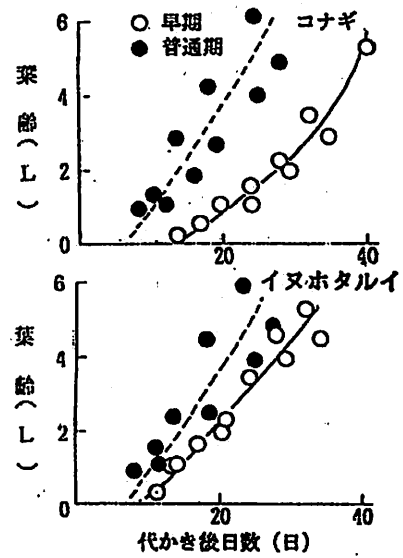


図2 コナギ及びイヌホタルイの葉齢進度(元~2年, 砂壤土)

表1 早期栽培における除草剤の種類、処理時期と除草効果(残存雑草対無処理区)(3年)

No	供試無除草剤	処理時期	砂 壤 土					殖 土						
			ノビエ	イヌホタルイ	コナギ	クサ	他	合計	ノビエ	イヌホタルイ	コナギ	クサ	他	合計
1	無処理区		(7.3)	(12.3)	(29.0)	(0.5)	(1.3)	(50.3)	(98.1)	(8.6)	(5.1)	(0.8)	(7.4)	(120)
2	カルエ-ス粒剤	移植後 5日	100	100	100	100	100	100	t	1	1	11	2	t
3	"	12	2	1	t	4	20	1	t	t	t	10	8	1
4	クサ-7D粒剤	5	2	5	t	32	146	5	t	1	t	t	3	t
5	"	12	1	3	0	7	12	1	t	10	0	1	t	1
6	クサカン粒剤	5	4	4	t	59	54	4	t	8	t	11	4	1
7	"	12	6	8	t	30	7	3	t	5	1	10	2	1
8	クサ-N粒剤	5	1	53	0	113	30	15	t	84	0	139	17	9
9	X52+同上	2+14	1	18	0	22	26	6	t	33	0	76	7	3

注) ① 4月18日移植。雑草量は7月20日に調査。()内はm²当たり風乾重g
 ② 移植日は代かき後、砂壤土が2日、殖土が3日

3. その他特記事項

担当部科室名: 農産研究所 栽培部 作物栽培研究室

研究担当者名: 福島祐助・田中浩平・大隈光善

研究課題名: 水稲用除草剤の実用化試験

期 間: 平成元~3年 予算区分: 経 常

既発表論文・資料名等: 雑草研究 第37巻別号 I

取りまとめ責任者名: 大隈光善